

メディアセンターの主な出来事（平成 19 年度）

メディアセンター（本部）

1. 図書館サービスポータル作成

「来館型と非来館型双方の図書館利用要求に応えることができる複合型のサービス基盤を、情報技術を活用して構築する」(『中期計画』)ため、ポータルサイト・ワーキング・グループにより、塾内の事例調査、国内他大学図書館の Web サイト調査を実施し、その結果を踏まえて制作仕様書を作成し、業者選定を行い、プロトタイプを作成した。平成 20 年 8 月に公開した。

2. 蔵書目録遡及事業の継続

「蔵書目録を整備し、蔵書検索システムの早期一元化を図る」(『中期計画』)ため、遡及入力事業を継続して実施した。三田メディアセンター所蔵の旧分類書 2 年目 (12,072 件)、三田学部図書 3 年目 (14,143 件) と信濃町メディアセンター所蔵の旧分類図書 5 年目 (約 3,500 件)、合計で約 3 万冊の蔵書目録遡及入力を行った。

3. 学内学術情報のデジタル化と学内外への発信

「学内の学術情報資源を、デジタル形態で学内外へ発信する」(『中期計画』)ため、平成 17 年度に構築を始めた機関リポジトリ「慶應義塾大学学術情報リポジトリ (KeiO Associated Repository of Academic Resources, 略称 KOARA)」の搭載データ拡充と安定運用のため「学術情報リポジトリ運用規則」の制定手続きを進めた。主たる搭載データである義塾紀要は創刊号からの全文デジタル化 11 タイトル(商学部 2, 日吉紀要 7 等)を含む 22 タイトルとなった。

本事業は、平成 17 年度から 3 年間にわたり国立情報学研究所から委託事業指定を受けて進めてきたが、平成 19 年度で第 1 期は終了し、平成 20~21 年度の第 2 期に引き継がれる見通しである。

また、慶應義塾創立 150 年記念事業の一環として、三田メディアセンターおよび福澤研究センターと共同で福澤諭吉著作の初期版 55 タイトル全 119 冊をデジタル化し、「デジタルで読む福澤諭吉」として公開した。

4. 次期図書館システムの導入開始

「来館型と非来館型双方の図書館利用要求に応えることができる複合型のサービス基盤を、情報技術を活用して構築する」(『中期計画』)ため、周辺システムとして学術情報へのリンクツールと電子情報資源管理システムを先行導入し、実運用のための環

境設定を整えた。次期図書館システム本体の選定については、全塾メディアセンターの次期図書館システム選定ワーキング・グループにより、国内外のベンダーに要求仕様書を送付し、ベンダープレゼンテーションを実施して、絞り込み作業を進めた。

5. 施設の整備

「書庫増設の必要性について広く学内の理解と協力を求め、長期にわたって利用できる書庫の建設」(『中期計画』)に対する行動計画を策定し、書庫を含む図書館施設の新設に向けて働きかけを行った。慶應義塾創立 150 年記念事業の一つとして建設中の日吉キャンパス第 4 校舎綱島街道側新教育棟の地下に収容能力 10 数万冊規模の書庫を設置することが決まった。

6. 図書予算のあり方についての検討

「新規財源の創出による収支構造の改革を行う」(『中期計画』)にあたり、差し迫った課題として、高騰する電子ジャーナルの予算対策にむけて、2008 年契約について 2007 年とほぼ同一内容の契約とするため、図書予算が不足する信濃町メディアセンターの支援方法を検討した。全塾メディアセンターでデータベースの契約を見直して支出削減を図り、本部分担比率を下げ信濃町地区以外の地区の分担比率を上げて本部の図書資料費を信濃町の支援に充てる等の内部努力を講じた。その結果、円高もあって、当面の危機は回避できた。

7. 人材の国際交流と蔵書データによる国際貢献

平成 18 年度から 3 年間の職員研修凍結により中断を余儀なくされていたが、図書館間の交換研修協定を結んでいるトロント大学図書館への職員派遣を再開し、9 月から半年間メディアセンター本部職員を 1 名派遣した。

8. 図書館史続編の刊行準備

慶應義塾創立 150 年にあたる 2008 年度末刊行を目指し、『慶應義塾図書館史続編』の編纂作業を進めたが、編集体制を見直さざるを得ない状況が生じたため、刊行時期を含め計画を変更した。

三田メディアセンター

1. 資料デジタル化推進事業への取り組み

過去数年に亘って進めてきた資料のデジタル化が大きく前進した年となった。

図書館資料のデジタル画像の公開の場であった、図書館ホームページ上のデジタルギャラリーにおい

て、福澤研究センターと協同制作した福澤諭吉著作コレクション（初期版本 55 点、119 冊）を 6 月に公開した。その後、主な著作数点にテキストデータによる全文検索機能を付加し「デジタルで読む福澤諭吉」としてリニューアルを行った。このサイトに対して平成 19 年度私立大学図書館協会賞の受賞が決定した。

そしてこの年の最も大きな出来事として、Google 社が世界的に進めているブック検索プロジェクトへの参加があげられる。欧米以外の大学図書館では初めて参加となる（7 月 6 日に記者発表を行った）。三田の蔵書の内、著作権保護期間満了の和刊本、和装本計約 12 万冊を対象に Google 社でのデジタル化を目指す。平成 19 年度は、プロジェクト進捗管理のための体制を本部・三田を中心に整え、デジタル化に向けての準備作業として、9 月より専従チームを組んで、データ整備、装備、修理等を開始した。第一フェーズとして慶應義塾・福澤諭吉関連図書 174 冊を先行公開し、創立 150 年の福澤先生誕生記念会に合わせて、1 月 10 日・11 日の 2 日間、上述の「デジタルで読む福澤諭吉」とともにデモンストレーションを実施するに至った。今後 Google の成果を土台にデジタル化事業をさらに促進していきたい。

2. 貴重書、特殊資料関連の動き

慶應義塾図書館では貴重書室を中心に多くの文書類を所蔵しているが、その中の一つ、日本外交史上貴重な資料群である「対馬文書関係資料」が 3 月 21 日付で重要文化財に指定された。貴重書室蔵約 1,000 点のうち指定対象となったのは、明治 5 年以前（対馬藩の宗家が日朝外交を管轄していた期間）の 895 点である。一部が、東京国立博物館「特別展覧新指定国宝・重要文化財」(2008 年 4 月 22 日～5 月 6 日)で一般公開された。

毎年恒例の慶應義塾図書館貴重書展示会では「いま鮮やかに甦る明治—ボン浮世絵コレクション—」を企画・実施した。昭和 20 年代に慶應義塾で教鞭をとっていたボン教授が収集し、のちに当館に寄贈された明治期の浮世絵コレクションからの展示である。創立 150 年記念と銘打ち、開催期間を 12 日間（1 月 26 日～2 月 6 日）に拡大して開催し、初日には初めてマスコミ向け内覧会を行った。

また図書館資料ではないが、宇佐美圭司氏による油絵「路上の英雄 no.3」(185×270cm キャンバス、1967 年作)の寄贈を受け、3 月 15 日に東閲覧室に設置した。新館入口を飾る「やがて、すべてが一つの円の中に。」も宇佐美氏の作品であるが、当館ではこ

れ以外にも多数の美術品を館内に配置しており、図書館をアカデミックな場たらしめる点においてプラスの役割を果たしている。

3. サービス・施設の改善

毎年の予算縮小からサービスのスクラップ・アンド・ビルドを迫られる中、日常の利用環境整備に配慮し、平成 19 年度は下記のようなサービス拡充・変更を行った。

- ・学外資料取寄せオンラインリクエスト開始
- ・グループ学習室の申請利用開始
- ・日曜開館時の複写カウンターサービスの休止
- ・AED（自動体外式除細動器）の設置
- ・4 階カウンターサービスの 3 階への一本化

館内施設改善の観点からは、調整予算を獲得して、新館のサインを見直し、昨年度に続く閲覧用椅子の全面的修理を行った。また改修工事として、夏期一斉休暇期間に新館開設以来初めて変電設備の刷新を実施した。

利用者広報の観点からは、4 月に図書館案内のパンフレットを新規作成し、三田メディアセンターニュースもより読んで楽しめるよう誌面のリニューアルを行った。年度末には図書館絵葉書の新版を制作した。

4. 目録データ遡及入力 of 継続

毎年継続中の目録データ遡及入力作業については、慶應義塾・福澤関係資料を優先的に行ったほか、旧分類和書及び経済学部図書を中心にを行い、約 34,000 冊の遡及入力を実施した。また、マイクロフィルム（リール）に関してもデータ整備と書誌作成を終了した。緊縮財政下においては、大規模な遡及入力事業の実施は難しいものの、毎年途絶えることなく継続していくべき事業と位置づけている。

日吉メディアセンター

1. 学生の利用環境向上

- ・グループ学習室ドア二重化による防音機能強化
- ・AV コーナー機器・ソファ・カーペット入替え
- ・2 階東閲覧室の文庫棚を増設
- ・1 階入口付近に移動式大型掲示板を設置
- ・1 階入口付近に人工樹木設置

2. 施設・設備の改善

- ・外壁補修・洗浄（北面、東面）
- ・正面玄関のドア取替え
- ・閲覧用椅子の部品交換、補強
- ・教職員エレベータ交換（火災・地震時運転制御機能付き）

- ・事務室内 AV 資料棚を増設
- ・照明器具交換 (2・3 階)
- 3. 情報リテラシー教育プログラム関連
 - ・教員向けメディアリテラシーワークショップを初めて実施 (春学期, 秋学期各 2 回)
 - ・塾高生徒への蔵書検索セミナーを初めて実施 (春学期 2 回)
 - ・新入生向け館内ツアーのガイドとして学生アルバイト 3 名を採用し好評
- 4. 学生の読書推進
 - ・学生の読書推進 WG を設置 (9 月)
 - ・読書推進のため, 文庫, 新書本の選定方法を変更
 - ・新着図書展示書架の改善
書架前に椅子を置き, 書架の脇に新着図書のカバーの展示を開始 (学生の注意を引き付け, 人を集める効果あり)
 - ・文庫・新書をカバー付きで装備することに変更
- 5. 書庫狭隘化対策
 - ・コンピュータ関連図書で, 2001 年以前に刊行され貸出記録のないものを除籍
 - ・地下書庫レファレンスブックの除籍作業を開始
 - ・バルコニーコレクションの入れ替え (2003 年まで受入で, 貸出 0 回のを廃棄)
 - ・カセットテープ形態の音声資料の一部 (劣化により利用できなくなったもの) を除籍
- 6. 協生館図書室 (仮称) 関連
 - ・経営管理研究科, メディアデザイン研究科, システムデザイン・マネジメント研究科との新図書室に関する打合せ等の準備作業を開始
 - ・経営管理研究科図書館の資料移動に関する打合せ等の準備作業を開始
 - ・メディアデザイン研究科, システムデザイン・マネジメント研究科の開設予算による図書の発注, 受入開始
- 7. その他
 - ・土曜日のサービスを完全委託化 (専任職員は原則として土曜日に出勤しない)
 - ・はしかの流行による休校措置に伴い学生に対するサービスを休止
5 月 26 日 (土) 13 時~6 月 1 日 (金)
 - ・ビデオカメラ・デジタルビデオ編集機のサービスを 3 月末で中止
 - ・東京都庭園美術館主催の展示会への出品
「建築の記憶—写真と建築の近現代—」2008 年 1 月 26 日 (土) ~3 月 31 日
対象資料: 過去の構成/岸田日出刀. 一東京: 相

模書房, 1938 (B@500@K2@2)

信濃町メディアセンター

事業計画に基づき, 利用者サービスの拡充に努めた。主な活動, 新規事業は下記のとおり:

1. 塾員サービス開始 (4 月)

これまで塾員の利用資格は学外者に準じていたが, 2007 年 4 月より塾員の利用枠を新たに設けた。塾員入館券を発行し, 塾内料金で複写サービスを提供することにした。

2. 電子リソース専用 PC 導入 (6 月)

卒業生やパソコンの登録がない学内者を主なターゲットに, 電子ジャーナルやデータベースを利用できる専用 PC を設置した。利用にあたっては図書利用券が必要。ログインはスタッフが行う。

3. ホームページ全面リニューアル (7 月)

より電子リソースへ直接アクセスしやすいページに改訂した。同時にオンラインリクエストの充実を図り, 参考調査申込みフォームなどを新設した。

4. 文献お届けサービス開始 (7 月)

ホームページリニューアルに合わせ, 文献お届けサービスを開始した。利用者が指定した送付先へ文献を送るサービスで, 信濃町キャンパス所属者, 三四会員, 紅梅会員, 医学研究科修了者, 健マネ三田会員を対象とする。

5. 1996 年図書移動 (7 月)

書庫不足解消のため, 資料の移動を実施した。1 階書庫の図書のうちもっとも古い 1996 年刊のものを, 地下書庫へ移動した。

6. 館内サイン全面リニューアル (8 月)

長年本格的な見直しが行われていなかった館内サインを刷新した。デザインを統一し, 雛形を一元的に管理する体制を整えた。

7. 館内飲食ルール改訂 (9 月)

密封容器 (ペットボトル, 水筒など) の飲料に限り, 館内で摂ってもよいことにした。若い世代を中心に飲料を常に持ち歩くことが一般化しており, 全面的な飲食物の排除が困難なため。

8. レファレンス資料再配置 (11~12 月)

複雑な資料配置を是正し, レファレンス資料のアクセシビリティ向上を図った。

9. 入館ゲート導入 (2 月)

より良いサービスを実現するための利用調査統計, およびセキュリティ強化のため, 入館チェック機能つきのゲートを導入した。図書利用券および学生証のバーコードを読み込ませる仕様になっている。

理工学メディアセンター

1. 洋雑誌の効率的な収集

- ・洋雑誌契約価格高騰による予算不足の対策として、冊子体と電子媒体で契約している洋雑誌を電子契約のみとし、二重投資を止める「洋雑誌契約の今後の方針」を理工学メディアセンター協議会に諮り、2007年7月に各学科の承認が得られた。2008年洋雑誌リニューアルでは、主要出版社8社、169誌を電子オンリーの契約とし、支出額を抑えることで購読維持が可能となった。
- ・電子ジャーナルを含めた洋雑誌の購入額は年間購入予算額の約80%を占め、毎年6~8%の値上がりが続いている。限られた図書予算を出来る限り有効に活用し、電子オンリー化への対策などで購読の維持に努めているが、新たな学術雑誌を加えて行くことは難しく、予算管理上、購読雑誌の入れ替えが余儀なくされる。そこで、利用者のニーズを把握するため、専任教員および大学院生（博士課程）を対象にWebによる「洋雑誌利用に関するアンケート（2007年）」を7月13日~8月31日、9月26日~10月31日に実施した。購入洋雑誌（電子オンリーも含む）731誌を対象に必要な雑誌をランク付けしてもらうという調査であった。このアンケートの結果をもとに各学科が求めている資料の分野の範囲などを分析し、理工学キャンパスのニーズに合ったコレクション維持・選定、新規購入希望による洋雑誌購入の見直しを2009年リニューアルに向けて行う。

2. 利用者環境の向上

- ・本館2階北側の閲覧席を、窓側の明るく快適な空間を維持しつつ、照明付きキャレルと椅子(15セット)に置き換えて、学習・研究に長時間集中できる環境を整えた。また、本館2階南側閲覧席の床にカーペットを敷設し、防音と学習環境の向上を図った。
- ・創想館地階のプレゼンテーションルーム及びグループ学習室の音漏れを防ぐために防音工事を行い、利用者がより学習・研究に打ち込める環境を整えた。試験期には通常の閲覧席として運用している。
- ・前年度に引き続き、別館集密書架の基盤及び装置の改修工事を行い、より安全な利用環境を整えた。

3. ホームページ

- ・理工学メディアセンターのホームページをリニューアルした（2008.4公開）。非来館者向けサービスを意識し、従来の「お知らせ中心」から「電子図書館サービスを利用する」ためのページとなるようデザインを一新した。シンプルで見やすく、必要なサービスや情報に容易に辿りつくことができるサイトを目指し、コンテンツの配置やラベルは、利用者の目線や行動をふまえて検討した。各画面上部にはナビゲーションメニューを設置し、サイト間の移動を簡便に行えるようにした。

トップページは、そのスペースを有効に使い、最もよく使うツールや情報を配置する一方で、あくまでもシンプルなデザインを保つよう注意した。また、情報を戦略的に伝える手段として「スポットライト」エリアを大きく設けた。掲示板にポスターを貼るようなイメージでこのエリアを使い、最も伝えたい情報を画像で表示している。

コンテンツ管理システムには“Plone”を採用し、これにより、ページの新規作成や編集が容易になった。今後はさらなるコンテンツの拡充を図るとともに、ユーザビリティの向上を目指し、サイトの評価を行いたいと考えている。

4. その他

- ・帆足誠之郎氏からの指定寄付（2003年度、¥300,000）による図書購入が終了（19タイトル）
- ・日本薬学図書館協議会（JPLA）電子ジャーナル・コンソーシアム会員を退会

湘南藤沢メディアセンター

1. 図書・雑誌コレクションの見直し

- ・外国雑誌の価格高騰傾向により予算が逼迫してきたことへの対策として、契約雑誌の見直しを行った。SFC専任教員全員を対象に「外国雑誌見直しのためのアンケート」を7月に実施し、その結果をもとに2008年契約において110タイトルの購読を中止した。一方、新たに要望があった雑誌14タイトルを新規契約し、利用者ニーズに合ったコレクションの維持に努めた。
- ・書架狭隘化対策として、購入後10年を経た図書について、利用状況および他地区の所蔵状況を調査し、塾内重複分を除籍した。

2. 2階レファレンスデスクなど施設関連

- ・2階レファレンスデスク周辺の改修工事を実施した。これにより閲覧席を刷新し使いやすくす

- るとともに、従来から力をいれている図書館利用セミナーがより効率的に開催できるスペースを創出した。
- ・1階入退館ゲート付近に総合案内サインを新たに設置した。
 - ・2階マイクロキャビネットを撤去し、跡地に集密書架を設置。学位論文と OECD 資料を移動した。
 - ・1階の保存書庫に集密書架を設置
 - ・メディアセンター外では、9教室の改修についてマルチメディア担当が AV 環境を含む仕様決定の中心的な役割を果たし実施した。
3. 利用者サービスの改善
- ・学生に、図書に親しんでもらうための企画展示として「教員のおすすめ本」展示を行った。3名の教員から、最近の著作やおすすめの本、影響を受けた本を推薦していただき、推薦コメントと図書をあわせて展示した。
 - ・新着図書情報の RSS 配信を開始した。また、OPAC や新着ニュース配信用の iGoogle ガジェットを提供を始めた。
 - ・館内設置 OPAC 脇に POP を配置し、随時 OPAC の便利な使い方やサービスを広報している。
 - ・新設セミナー「文献お取り寄せ入門」、「課題製作のためのビデオ編集講習会」を企画・実施した。
 - ・次世代 DVD プレーヤーとして Blu-ray と HD-DVD を 1 台ずつ館内の大型モニターブースに設置した。
4. デジタルライブラリー事業
- ・学位論文データベースを e-KAMO システムに統合した。
 - ・健康マネジメント研究科学位論文を e-KAMO システムに搭載し、湘南藤沢キャンパスと信濃町キャンパスで閲覧できるようになった。
 - ・SFC で生産される学術情報を KOARA (慶應義塾大学学術情報リポジトリ) に搭載するため、湘南藤沢学会との調整を行い、一般出版物と SFCJournal の搭載協力を得た。
5. 神奈川県内大学図書館相互協力協議会関連
- ・昨年度に引き続き、神奈川県内大学図書館相互協力協議会の会長館を務めた。5月に総会、12月に実務担当者会を実施し、任期をつつがなく終了した。
6. 看護医療学図書室
- ・健康マネジメント研究科後期博士課程生向けの洋書購入に際して、選定リストを作成し、関係教員に配布した。その結果、要望のあった 84 タイトルを購入した。
 - ・和雑誌の見直しをするため、利用度調査と教員への「和雑誌見直しのためのアンケート」を実施し、その結果をもとに 12 タイトルの購読を中止した。
 - ・教員から購入希望があった図書を「推薦図書」として館内での展示を始めた。また講演にきたゲストスピーカーの著作も展示を開始した。
 - ・書架狭隘化対策として、2000 年以前発行で貸出実績がない図書の一部を集密書架へ移動した。